

「就労とは」

就職指導主任 田中 幹雄

就労の問題で私達が一番よく考えなければならないことは、一人ひとりの性格・能力によって、その個性に合った社会環境や職種を考え、将来その生徒にとって前進的な意味をもっているか、生き甲斐につながっていくかということです。何が何でも就労させねばならない、とにかく仕事をさせてくれさえすればよいという考えは、持っていません。就労することが生徒自身の成長に前進的な意味がなければなりません。

たとえば、人生80年として卒業後の人生は60年以上になります。卒業というのは、教育のゴールなのではなく一つの節目だと思います。

家庭に置くよりも、地域社会の中で過ごした方が、生徒にとって前進的な意味があるからです。それは、学校生活で積み上げた生活リズムを崩さずに過ごしてほしいと望んでいるからです。地域社会に出ることは、多くの刺激を受けて更に能力を開発し、自己実現に向かって進む一つの場なのではないでしょうか。

起床、出勤、仕事、帰宅、就寝、日によっては疲れて夜ぐっすり睡眠をとるという規則正しい生活を送ることによって、日常生活行動、健康管理、知的能力、作業能力、意志交換、集団参加能力、社会生活参加能力が芽生えてくるのではないのでしょうか。

もし、生徒が力を出し切れない職場や、無理な環境であれば、充実感や意欲が失われてしまうと思います。

もう一つの重要なことは、生徒にどうやって就労というものを理解させていくかということだと思います。人間は働くものだということ、その見返りとして賃金があり、その賃金によって、人間は経済的に自立していくのだということ、この経済的自立ということが人間にとって大切なものだということを理解させることだと思います。

家庭の中では、与えられたものを食べ、与えられたものを着ているのだから生活に必要なものは、親が持ってくるのだという感覚になってしまっているのではないのでしょうか。

例えば、お金をを使わせることだと思います。生活に必要なものを買わせたりすることによってお金の価値も理解できます。

このようなことを教えていくことが、将来、就労して賃金をもらった時に非常に役立つと思います。また、それが意欲にもつながるのではないのでしょうか。